

本市での熊出沒について

佐藤 聡一



〔質問〕今年度、市内での熊の目撃情報は何件あったのか伺う。

〔答弁〕【農林課長】8月末現在で39件、9月も4件である。すでに平成26・27年度を超えている状況にある。

〔質問〕現在、熊が出没した地域では、どのような方法で告知を行っているのかを伺う。

〔答弁〕【市長】しろいし安心メールの配信、チラシの配布、追い払い花火の打ち上げ、看板の設置、小・中学校への情報提供を行っている。

〔質問〕しろいし安心メールは、速報性がある方法である。しかし、メールを利用していない方もいる。

そのため、音による追い払い効果も期待できる広報車を活用して、目撃現場周辺でお知らせを行なってはどうか、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】広報車での周知も有効であり、今後検討していく課題であると考ええる。

◎新しくなった市のホームページについて

〔質問〕閲覧数の変化を伺う。

〔答弁〕【総務部長】今年度は、月に約3万件を超えている。昨年度は約2万件であり、リニューアル後の効果が出ていると考える。

〔質問〕市民から情報量が減ったのではないかと、以前あった資料が見つからないとの意見をいただいた。実際の状況を伺う。

〔答弁〕【総務部長】移行作業の中で、各課のページをすべて再点検を行い、古い情報など移行しなかったものもある。

今後は、必要な情報、あると便利な情報をお知らせしていただき、より使いやすいホームページにしていきたいと考える。

〔質問〕催事の告知花火の情報について、どこで何をやっているのかを知ることができれば、その催しへ足を運ぶ人も増え、活性化につながるかと考える。市のホームページに掲載できないのかを伺う。

〔答弁〕【市長】打ち上げられるすべての花火が届け出されているとは限らないのが実情であり、情報が手に入らず難しいことだと考える。そのため、現在のホームページに掲載することはできない。

◎交流人口の拡大について

〔その他の質問〕

市民の「コミュニティ」の場について

佐藤 龍彦



〔質問〕市民が生き生き暮らすためには、地域コミュニティが重要と考えるが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】地域コミュニティを構築していくことは、生きていく上では、大変重要なことと考えている。

〔質問〕高齢化は、市の中心部でも深刻になってきていると実感を持たれている市民も多くいる。商店街に人の姿が余りないこと、白石のまちは年々寂しくなるとの市民の声も多く寄せられている。

そこで、高齢者・若者・子どもたちが「立ち寄れる場所」「集まれる場所」づくりのため、市が空き店舗を活用し

たカフェやサロンなどを商店街に開設してはどうか伺う。

〔答弁〕【市長】市では現在、支え合いのまちづくりを目指す生活支援体制整備事業の中で、地域づくりの重要性について、市民への啓発を進めている。

また、介護予防事業として、運動を中心とした地域の通いの場の立ち上げ支援、ふれあいサロンの支援などを行っている。

しかし、必要なサロンは地域ごとに異なるため、住民の力で立ち上げていくことが重要と考えている。

そのため現在、市が空き店舗を活用したカフェやサロンをつくることは考えていない。〔質問〕地域交流の場として運営している「ふ

れあい・いきいきサロン」は、市が社会福祉協議会に委託している事業である。

その目的は、市内において、市民ボランティア等が開設運営するふれあいサロンに対し助成し、生きがいづくり・社会的孤立感の解消・健康増進など、地域における福祉コミュニティづくりの促進を図るとされている。

そこで、「ふれあい・いきいきサロン」の現在の課題について伺う。

〔答弁〕【市長】課題は、男性の参加が少ないこと、サロンが38カ所しかないことである。

〔質問〕市民のコミュニティづくりを、今後どのように進めていく必要があるか伺う。

〔答弁〕【市長】行政だけではなく、市民、地域、そして議員の皆さんのそれぞれの支援が必要不可欠であると考える。